

G I G A スクール環境を生かした学校づくり

1. ICTの活用状況

G I G A スクール構想の推進により、高等学校において Wi-Fi をはじめとする ICT 機器の整備が進められ、本校においては、「Google Workspace for Education」を教育用のプラットフォームとして活用し始めました。学習においては「Google Classroom」を主に用いることで授業の ICT 化を推進しています。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延により必要となった生徒の健康観察における ICT 機器の利用を進め校務の能率化を図りました。以下はその取組状況についてまとめたものとなります。

2. Google Workspace for Education の活用

(1) Google Classroom の活用

Google Classroom を用いてオンライン上に仮想教室をつくることで、生徒への連絡や課題の提出などを行いました。授業においては小テストや質問法による課題の提出などを行い、家庭でも実施出来るだけでなく振り返って学習できる体制を整えました。また、クラウド上で学習を行うことで、同じファイルを同時編集するなどの授業実践も行っています。

授業の中で Classroom を通して Forms を活用した小テストを各教科で実施しました。小テストの配信や解答の集約などの業務削減につながるだけでなく、ICT 機器を利用して行うことで生徒の主体的な授業参加を見込むことが出来ました。また、2つの学級を同時展開してクラウド上で意見共有するなどの協働学習も行っています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の対策等のリーフレットも PDF ファイルで配信するなど、授業以外の場面で連絡ツールとしても活用しています。

(2) Meet (オンラインによる学習の補償)

Google Classroom から Meet に接続することでオンライン学習を可能にしました。新型コロナウイルス感染症に係る出席停止措置となった生徒に対する学習の保障の観点から、放課後利用してオンライン学習の機会を設けています。

特に定期考査直前などの時期には生徒は積極的に参加していました。事前に Classroom を通して課題を配信し、その課題について Meet でやりとりし指導しました。生徒も授業に参加出来ておらず不安な状態が続いていましたが、オンラインで対面することで安心して学習に取り組んでいました。



(3) Forms・スプレッドシート（健康観察）

前述した Forms を活用して毎日の健康観察を行っています。生徒は登校する前に Forms を利用し体温や健康状態などをオンラインで報告します。その結果をスプレッドシートに集約し、結果を教員が毎朝チェックしています。未入力の子も瞬時に確認できるようになっており、紙による健康チェックに比べ業務量を大幅に削減できました。また、外部の行事等へ参加する際、遑って健康観察の記録を確認しています。

<スプレッドシートによる確認表>

年	2021	月	08	日	04	09:03
08月03日 朝の健康状態						
1年	熱	症状	家族の症状	感染地域への往来	<未提出者>	
		良好 (以下の状態は いない)		行っていない	1年生	
		良好 (以下の状態は いない)		行っていない		
	36.4	良好 (以下の状態は いない)		行っていない		
		良好 (以下の状態は いない)		行っていない		
		良好 (以下の状態は いない)		行っていない		
		良好 (以下の状態は いない)		行っていない		
		良好 (以下の状態は いない)		行っていない		
		良好 (以下の状態は いない)		行っていない		
2年					2年生	
	36.5	良好 (以下の状態は いない)		行っていない		
	36.1	良好 (以下の状態は いない)		行っていない		
		良好 (以下の状態は いない)		行っていない		

学年	1	番号	6	氏名
10月				
	熱	症状	家族の症状	感染地域への往来
1日	36.1	良好 (以下の状態は いない)		行っていない
2日	36	良好 (以下の状態は いない)		行っていない
3日	36.2	良好 (以下の状態は いない)		行っていない
4日	36.2	良好 (以下の状態は いない)		行っていない
5日	36.1	良好 (以下の状態は いない)		行っていない
6日	36.3	良好 (以下の状態は いない)		行っていない
7日	36.3	頭痛 (以下の状態は ない)		行っていません
8日	36.5	良好 (以下の状態は いない)		行っていません
9日	36.1	良好 (以下の状態は いない)		行っていません
10日	36.3	良好 (以下の状態は いない)		行っていません
11日	36.2	良好 (以下の状態は いない)		行っていません
12日	36.2	良好 (以下の状態は いない)		行っていません
13日	36.3	のどの痛み (以下の状態は ない)		行っていません
14日	36.6	良好 (以下の状態は いない)		行っていません
15日	36.3	良好 (以下の状態は いない)		行っていません
16日	36.2	良好 (以下の状態は いない)		行っていません
17日	36.3	良好 (以下の状態は いない)		行っていません
18日	36.3	良好 (以下の状態は いない)		行っていません

3. 生徒の反応

授業においてICTの活用を進めることで生徒は主体的に授業に参加するようになりました。普段の授業ではなかなか発言できない生徒も Classroom を通してオンライン上で発言することが出来るようになりました。また、授業の内容を理解していても説明出来ない生徒などの言語活動がICT機器の活用により活発化していることを実感しています。

<クラウド上の生徒の回答>



8月23日

xがマイナスの範囲内で決まっている場合、最小値をとるxの値は範囲の右側の値になる。また、xがプラスの範囲内で決まっている場合、最小値をとるxの値は範囲の左側の値になり、極小値(頂点)の範囲内にある場合、xの値は、頂点である真ん中に決まるといえると思います。

4. 課題と今後の取組

端末が完全に整備されておらず、活用できない機能も多々あります。来年度からのBYODも含めハード面での環境の整備が必要になると思います。はじめは特定の教科に偏ってICT機器の導入をすすめていましたが、校内研修を複数回行うことで徐々に各教科においてICT機器を活用している状況です。教育現場に限らず仕事のDXは必要とされている現代だからこそ、これまでの古き良き教育と新しい教育を融合することでICTによる教育は生徒にとって有効なものになると考えます。また、新学習指導要領で求められる指導と評価の一体化といった観点からも学習記録(ログ)をクラウド上に容易に保存できるICT機器の活用は非常に有効であります。ICT機器の活用に囚われすぎずに生徒への良い指導と業務の効率化の観点を軸に教育におけるDXを目指していきます。